



TITLE:

京大広報 No. 527

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 527. 京大広報 1998, 527: 556-569

ISSUE DATE:

1998-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/196585>

RIGHT:



京大広報

No. 527

1998. 9



総合人間学部 1 号館 関連記事本文 559 ページ

目次

全学に訴える	差別落書きについて557
大学の動き		
長尾総長の大韓民国訪問557	
延世大学校との学术交流558	
平成10年度国立学校施設整備事業の決定558	
部局の動き		
総合人間学部 1 号館竣工披露会559	
医療技術短期大学部の動き		
医療技術短期大学部部長の再任559	
日誌559	
訃報560	
随想		
教育の恐ろしさ	名誉教授 奥村 透562

洛書		
伝統と創造の都市ウィーン	根岸 学563
資料		
国立大学教官等の待遇改善に		
関する国立大学協会の要望書564	
平成 9 年度予備的経費配分実績566	
平成 9 年度歳入・歳出決算額		
及び対前年度比較調566	
公開講座		
京都大学春秋講義（秋季講座）の開講567	
京都大学市民講座の開講568	
話題		
クラブ紹介	陸上競技部569

全学に訴える 差別落書きについて

平成10年8月31日

京 都 大 学
京都大学同和・人権問題委員会

去る7月10日、法経本館一階便所内に在日韓国人ならびに被差別地域の人々に対する悪質な落書きのあることが判明した。大学としては7月13日付の告示（平成10年7月13日付告示第5号参照）をもって、このような行為が到底容認できないものであること、本学は今後とも社会的差別解消のために一層の努力をするが、学生・教職員にあっても差別問題に関して自らの認識をさらに深められるよう、全学に訴えたところである。

しかるに、8月18日になって、法経本館三階便所内にまたもや被差別地域の人々に向けた差別落書きのあることが発見された。これは先回の落書きに便乗し、差別解消に真摯に取り組むさまざまな努力を揶揄しようとしたものであり、まことに陰湿かつ卑劣な行為としか言いようがない。

本学のこれまでの努力にもかかわらず、いまだにこのような事件があとを絶たないことはまことに遺憾である。今回の事件をひとつの試練と受け止め、

今後とも人権擁護、反差別の取り組みを強めていく決意であるが、この際、京都大学的全構成員が、こうした差別言動に対する怒りを新たにされるとともに、人権問題全般に関する認識を深め、己の心の隅に潜んでいるかもしれない差別意識の点検を怠らぬよう、強く要望する。

告示第5号

平成10年7月10日、法経本館一階トイレ内に在日韓国人及び被差別部落の人々に対する悪質な落書きのあることが判明した。

かかる行為は、誠に遺憾であり、本学としては到底容認できない。

本学は、さまざまな社会的差別解消のため一層の努力をするが、学生・教職員全員が更に差別問題に関して自らの認識を深められることを強く望むものである。

平成10年7月13日

京 都 大 学

大学の動き

長尾総長の大韓民国訪問

長尾 真総長は、6月23日から25日までソウル大学校を会場として開催された環太平洋大学協会（Association of Pacific Rim Universities）第2回年次会議に出席した。

また6月26日延世大学校を訪問し、本学と延世大学校との「学術交流に関する一般的覚書」を交換し、あわせて延世大学校金 炳洙総長をはじめ関係教官と懇談し、同日帰国した（次項参照）。

環太平洋大学協会（APRU）は1997年、環太平

洋地域の各国・地域の32大学を創設会員として発足した協会であり、本学もその会員である。

第2回年次会議では、今後のAPRU事業について協議が行われたが、会議の第一日目冒頭にパネルディスカッション「Role of Communications Technologies for Stimulating Collaboration Among APRU Members」が設けられ、長尾総長は「Network Related Activities in Japan」と題する講演をするとともに、パネリストとしてもこれに参加した。

延世大学校との学術交流

「学術交流に関する一般的覚書」が平成10年6月26日大韓民国の延世大学校において、長尾 真総長と延世大学校金 炳洙総長により署名され、交換された。

延世大学校は、1985年に創立100周年を迎えた大韓民国を代表する私立の総合大学である。その前身は、1885年アメリカのキリスト教会により設立された Severance Union Medical College と、1915年アメリカとカナダのキリスト教会によって設立された Chosun Christian College に遡る。これら2つのCollegeが、1957年に合併し今日の延世大学校が誕生した。

現在17のカレッジを持ち、学生数約35,000人、常

勤の教官数は1,000人強であり、42カ国約300大学と国際協力関係を持っている。



平成10年度国立学校施設整備事業の決定

平成10年度国立学校施設整備事業のうち、本学関係分は次表のとおりである。

示達	事業名	構造・階	面積	備考
暫定	(中央)基幹・環境整備			(凡例) S Rは鉄骨鉄筋コンクリート構造 Rは鉄筋コンクリート構造 5 - 2は地上5階、地下2階
暫定	(医病)基幹・環境整備			
1次	医学部附属病院外来診療棟(軸Ⅱ)	S R 5 - 2	29,080m ²	
1次	医学部附属病院外来診療棟(仕上Ⅰ)	S R 5 - 2	29,080m ²	
2次(補正)	(犬山他)基幹・環境整備			
2次(補正)	工学部研究実験棟	S R 8 - 1 S R 3 - 1	5,730m ²	
2次(補正)	総合情報メディアセンター	R 4 - 1	5,300m ²	
2次(補正)	ユニバーシティ・ミュージアム	R 3 - 2	6,540m ²	
2次(補正)	情報ネットワーク			
2次(補正)	医学部附属病院外来診療棟(仕上Ⅱ)	S R 5 - 2	29,080m ²	
2次(補正)	(医病)基幹・環境整備			

(施設部)

部局の動き

総合人間学部 1 号館竣工披露会

総合人間学部は、7月21日（火）に今春竣工した 1 号館（鉄筋コンクリート造 4 階建 4,018m²）の竣工披露会を、長尾 真総長はじめ部局長、名誉教授等学内外の関係者110名あまりの出席のもとで催した。

午前11時から、1号館1102講義室で竣工記念会が開催され、林 哲介総合人間学部長が、学部創設以来初の学舎の建設に尽力頂いた関係者への謝辞を述べ、今後の学部教育、研究の進展への一歩としたいとの抱負を込めて挨拶した。長尾総長からは、総合人間学部 1 号館の教育研究活動に果たす役割について期待が述べられた。

倉橋一郎施設部企画課長の工事概要の報告に続き、中垣 勲文部省文教施設部大阪工事事務所長の祝辞（代読 同工事事務所本木孝節所長補佐）、林学部長から建設にあたった施工関係各社に感謝状の贈呈があり、竣工記念会を終了。引き続き、総合人間学部教官の案内で、1号館の施設披露が行われた。

京大会館で正午過ぎから開かれた記念祝賀会では、林学部長の挨拶に続き、古澤 巖副学長並びに児嶋 眞平名誉教授（元総合人間学部長・現福井大学長）から祝辞が述べられ、三好郁朗副学長の発声で乾杯、豊島喜則大学院人間・環境学研究科長のスピーチなど竣工記念にふさわしい歓談が続き、盛会のうちに午後 1 時30分閉会した。



（総合人間学部）

医療技術短期大学の動き

医療技術短期大学部部長の再任

下野登士男医療技術短期大学部教授（神経生理学）が、7月1日医療技術短期大学部部長に再任さ

れた。任期は平成12年3月31日までである。

日誌

（1998 年 6 月 1 日～7 月 31 日）

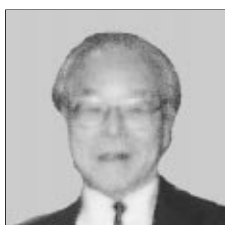
- | | | | |
|------|---------------------------------------------------------------|-----|----------------------------------------------------------|
| 6月1日 | 学位授与式 | 17日 | 創立記念音楽会 |
| 2日 | 総長、職員組合との交渉 | " | 国際交流委員会 |
| 3日 | イスラエル国 テルアビブ大学 Yoram DINSTEN 学長他 2 名来学、総長及び関係教官と懇談 | " | 国際交流会館委員会 |
| " | 外国人留学生パーティー | 18日 | 創立101周年記念式 |
| 9日 | 大学院審議会 | " | 名誉教授懇談会 |
| 12日 | 連合王国 プリティッシュ・カウンシル 西日本代表 Mark A. L. BAUMFIELD 氏来学、総長及び関係教官と懇談 | 23日 | 総長、環太平洋大学協会第 2 回年次会議出席及び延世大学校との学術交流協定締結のため大韓民国を訪問（26日まで） |
| " | 人権に関する研修会 | " | 評議会 |
| | | " | 建築委員会 |
| | | 26日 | 発明審議委員会 |

7月1日 ブルネイ・ダルサラーム国 ブルネイ大学 ABU BAKAR Apong 副学長他1名来学，総長及び関係教官と懇談
 7日 評議会
 8日 国際交流委員会
 10日 同和・人権問題委員会

10日 核燃料物質管理委員会
 14日 安全委員会
 15日 環境保全委員会
 21日 発明審議委員会
 28日 附属図書館商議会

訃 報

山内 邦臣 名誉教授



本学名誉教授山内邦臣先生は、6月17日逝去された。享年83。

先生は、昭和13年京都帝国大学文学部を卒業後、本学副手，助教授を経て，同38年教養部教授に就任，同45年奈良女子大学文学部教授に就任，同54年停年退官された。退官後は，南山大学，龍谷大学，英知大学の教授を歴任された。昭和49年京都大学名誉教授の称号を受けられた。

先生のご専門はアメリカ文学で，中でもユージン・オニールの研究において数多くの優れた研究業績を

残された。主な著書に『詩魂と悲劇 ユージン・オニール研究』，編著に『アメリカ文学 問題と追究』等がある。先生は，長年関西地方を中心にアメリカ文学研究の推進・組織役として多大な貢献をされ，昭和44年から同58年まで日本アメリカ文学会関西支部長を務められたが，この間同45年から同49年にかけて日本アメリカ文学会（全国）副会長，同49年から同53年までは同会会長を務められ，その後も同会顧問として学術の発展に大きく寄与された。

これらの研究活動，学術上の貢献により，平成4年4月勲二等瑞宝章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（総合人間学部）

植田 三郎 名誉教授



本学名誉教授植田三郎先生は，6月20日逝去された。享年94。

先生は，昭和4年京都帝国大学医学部医学科を卒業，同大学医学部副手，助手，講師，助教授を経て同16年京都帝国大学結核研究所教授に就任，同42年停年により退官され，京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間，昭和33年10月から同35年10月まで結核研究所長として，大学の管理運営に貢献された。

本学退官後は，昭和42年4月から同50年3月まで橘女子大学教授を務められた。

先生は，当時国民病と言われた結核の研究に力を注ぎ，中でも結核菌の形態，発育様式の研究において優れた研究業績を残され，医学の進歩発展に寄与された。

また，日本結核病学会，日本細菌学会，日本癩学会などにおいて，理事，評議員等を歴任された。

これらの研究活動，学術上の貢献により，昭和48年11月勲二等瑞宝章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（再生医科学研究所）

入矢 義高 名誉教授



本学名誉教授入矢義高先生は、6月30日逝去された。享年87。

先生は、昭和11年京都帝国大学文学部文学科を卒業後、広島県立呉第一中学校教諭、東方文化研究所助手、研究員、京都大学人文科学研究所助教授、名古屋大学文学部教授を経て、同45年京都大学文学部教授に就任し、中国語学中国文学第一講座を担当された。昭和48年1月から翌年3月まで京都大学評議員として、大学の管理運営に貢献された。昭和49年に停年退官後は、花園大学文学部教授、京都産業大学外国語学部教授、(財)禅文化研究所教授等を歴任された。昭和52年には名古屋大学名誉教授、平成7年には京都大学名誉教授の称号を受けられた。

先生は、中国の中古から近世にかけての詩文や俗文学に該博な知識を持つとともに、口語史の研究にもすぐれて個性的な独自の領域を開拓した。とりわけ明代詩文の研究、敦煌変文や元曲を中心とする俗文学及びその言語形式の研究は、高く評価されている。さらに言語への興味から禅の語録にも関心を広げ、特に語学的な緻密さによってわが国の禅研究の水準を飛躍的に高めた。『寒山』『袁宏道』『臨濟録』『碧巖録』などの詩や禅文献の訳注、論文集『求道と悦楽 中国の禅と詩』『自己と超越 禅・人・ことば』『空花集』など多くの著作がある。

これらの研究活動、学術上の貢献により、昭和58年勲二等瑞宝章を授与され、平成6年日本学士院会員に選出された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院文学研究科)

藤枝 晃 名誉教授



本学名誉教授藤枝 晃先生は、7月23日逝去された。享年86。

先生は、昭和9年京都帝国大学文学部史学科を卒業後、文学部副手、東方文化学院京都研究所嘱託、東方文化研究所研究員、京都大学人文科学研究所助教授を経て、同43年教授に就任、中国社会部門を担当された。昭和50年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

先生は、東洋史学、東西交渉史の研究から出発され、やがて敦煌写本を中心とする中国古文書学の研

究に従事、共同研究班を組織して学内外の研究者を結集するとともに、自身も数多くの優れた業績を残された。とりわけ長年にわたる写本の実地調査に基づいて案出された敦煌写本真贋の判定法は、国際的な注目をあつめた。主な著書に『居庸関』(共編)、『文字の文化史』、『高昌残影』等がある。

これらの研究活動、学術上の貢献により、昭和34年日本学士院賞、同47年フランス学士院のスタニスラス・ジュリアン賞を受賞され、同50年フランス政府より教育學術功勞賞オフィシェ級勲章を、同57年勲三等旭日中綬章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(人文科学研究所)

随想

教育の恐ろしさ

名誉教授 奥 村 透

私が生まれたのは昭和6年（1931年）であるから、戦中派と戦後派のはざまの世代に属する。すなわち私は戦争の悲惨さと戦後の平和と民主主義と、相反する二つの日本を経験したのである。だんだん数が減りつつある戦前派・戦中派に対して、戦争や軍国主義と戦後の平和な民主主義の両方を知っている貴重な存在なのである。少年時代を戦争に明け暮れた環境の中で育った我々が、天皇を現人神と仰ぎ、軍国主義を讃美する思想を肯定して育ったのは至極当然のことである。同時に敗戦とともに、アメリカから教えられた民主主義と自由主義を、当り前のこととして自然に受け入れ、それを享受し、その恩恵を熱烈に歓迎享受しているのも明らかな事実である。

では、この劇的な転換をもたらしたものは何かといえば、それは「教育」のほかにはない。戦争下の我々は天皇の神性と、大東亜共栄圏の建設の正義と、富国強兵の絶対性を幼稚園から学徒動員に至るまで、あらゆるメディアと教育によって、徹底的に叩き込まれたのである。その教育の及ぼす影響は絶大で、ごく一部の左翼主義者を除き、全国民を完全に支配したのである。純粋な学徒兵の中には、天皇のために棄てる生命は鴻毛よりも軽いと考え、人間魚雷に乗りこんで敵の戦艦に体当たりすることを誇りとし、敗戦の報を聞くや割腹自殺して果てた軍人も多かったと聞く。これひとえに日本軍部による狂信的な軍国主義と皇国史観に基づく教育によるものに外ならなかった。私自身中学校（旧制）へ受験する面接の時、カーキ色の詰襟に身を包んだ校長に向かって、将来は戦車兵になって国のために戦うと誓い、校長はさもありませんとばかり微笑した。入学した少年たちは成績によって3クラスに分けられた。最も優秀な50名は軍人組と称するクラスに編入された。だが満足に授業が行われたのは入学最初の1年間だけで、2年生から学徒動員にかり出され、家族が出征中の名誉の家で農耕の手伝いをしたり、駅で軍需工場の



荷物の運搬をしたりした。終戦の玉音は駅の構内で聴いた。

敗戦と同時に連合軍のジープが右に左に走り、学制が百八十度転換し、我々は新制高校生になり、男女共学とて女子学生が入って来て、男子生徒と机を並べることになった。我々はその変化に目を丸くしたが、この学制の変化は至極スムーズに運んだ。これはすべて連合国軍特にアメリカによる強力な指導によるものであった。天皇は自ら人間宣言をし、国民統合の象徴になった。憲法ははじめ戦前の法律はすべて改正され、家族制度にかわって民主主義が国となり、憲法第2章で日本は戦争さえ放棄したのである。まさに戦前・戦中のイズムと百八十度の転換である。連合国は我が国の執拗な抵抗、武装蜂起などをかなり恐れたようであるが、日本国民はいとも易々と変化を享受し、同化していった。これも敗戦という手きびしい教育の賜物であった。これも教育が国民性に及ぼした強烈な影響であった。教育が好戦的な日本を平和な日本に変えたのである。

戦後シベリアに抑留された日本兵が、マルクス・レーニン主義に洗脳されて帰国し、人々を驚かせたことがあった。近くはオウム真理教の信者が、洗脳によって普通人の想像を絶する行動に走った例が新しい。

このように教育というものは、リーダーの意図ひとつで善良なる大衆を右にも左にも変える恐ろしい力を持っている。最近でも憲法を改めようという動きや「君が代」を国歌として強制しようとする動きもある。今後我が国ははじめ世界をリードする立場にある人々は、何が真実の途かを深く洞察し、世界を破滅に導かぬよう、心して事に当る重大な責任を持たねばならぬ。一方ついていく大衆も、教育に欺まかれて破滅せぬよう、教育の善悪を判断する眼を曇らせず、途を誤ることのないようにしなければならぬ。

（おくむら とおる 元教養部教授 平成4年退官 専門は英文学）

洛書

伝統と創造の都市ウィーン

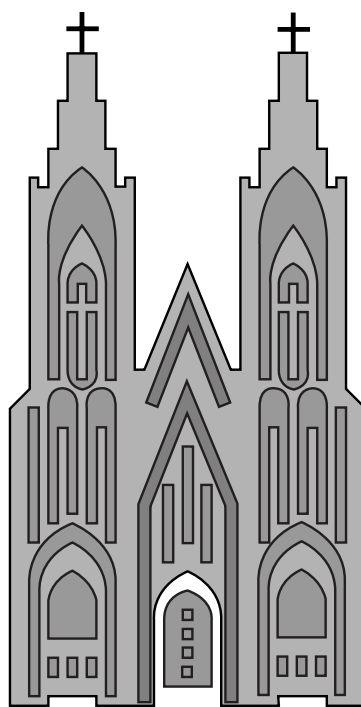
根 岸 学

私は昨年初めてウィーンを訪れた。ウィーンに着くとまずシュテファン寺院の尖塔が目に入ってくる。中世に建てられたこの寺院は市の中心にあり、ウィーン全体を見おろし、ハプスブルグ家の王宮をも凌駕する。中世の寺院が町の建物を見守っている。ウィーンの市電に乗って町を眺めていると、とてもカラフルな大きな施設が見えてきた。色鮮やかな煙突がある。まるでドリームランドのようなのだが、これが市のゴミ焼却場なのだ。実はこの建物はウィーンの画家フンデルトヴァッサーの設計による。彼は、これ以外に市民の住宅も設計している。フンデルトヴァッサーハウスと呼ばれ、訪れてみた。柔らかい曲線で出来た建物で、色とりどりで鮮やかな色彩をしている。彼の絵を集めた美術館も近くにある。これまた彼らしい建物で、床は平らでないし、やたら観葉植物が室内におかれ、トイレまでカラフルだ。彼はウィーン幻想画派の流れをくむ表現主義的な絵を描く。直線を忌み嫌い、全て曲線で描き、渦を巻いたり波を打ったりしている。現代の形式合理化された社会生活に対抗し、人間性に満ちた自然な生活を求めている。ウィーンは創造的な芸術家にゴミ焼却場の設計を委託する町なのだ。

ところでウィーンは音楽の町である。美しいオペラハウス、最高の音響を誇るムジークフェラインがある。オーストリアの国歌はハイドンの八長調の弦楽四重奏から採られ、その自筆譜はウィーンの国立図書館に保存されている。ここにはベートーヴェンやブルックナーなどウィーンで活躍した作曲家の自筆譜も並べられている。崇高なドイツ音楽の伝統がここにあることを誇示するように。20世紀初頭にウィーンで音楽文化が爛熟期を迎える。この時期にウィーンで活躍した作曲家にアルバン・ベルクがいる。彼の最後の曲がヴァイオリン協奏曲である。私はこの曲がとても好きだ。伝統あるヨーロッパの音楽文化は表現形態の合理性の追求であり、この頂点となるのが12音技法である。ベルクのヴァイオリン協奏曲もこの技法を基礎とし、極めて精緻なプログラムで書かれている。この曲の第2部のアダージョで、バッハのカンタータ第60番のコラールがそのまま引

用される。そして、それを引き取るようにヴァイオリンが音階を上昇し、遙か彼方へ静かに消えていく。ヨーロッパ音楽の長い伝統とその彼方の未知の世界を暗示するかのように。私はウィーンの青い空を眺めながら、ヨーロッパの芸術文化の誰も知らない未来の変容に思いを馳せた。

(ねぎし まなぶ 大学院薬学研究科教授)



資料

国立大学教官等の待遇改善に関する
国立大学協会の要望書

このたび国立大学協会から国立大学教官等の待遇改善に関して、以下のとおり人事院総裁、大蔵省給与課長及び文部大臣に要望書を提出し、その趣旨に則り実現方を要望した旨報告があった。

平成10年 7 月 6 日
国立大学協会会長
阿 部 謹 也

国立大学教官等の待遇改善に関する要望書

国立大学教官等の給与等の待遇改善については、人事院をはじめ関係機関の特段の配慮を得て改善がなされてきたところであり、特に、大学特有の専門職である技術職員については、組織上の位置付けに伴い、行政職俸給表（一）Ⅶ級定数の標準化及び同Ⅵ級定数の大幅増が措置されるなど、処遇の改善が図られたことについて、関係各位のご努力に深く感謝する次第であります。

いうまでもなく、近年、教育改革の問題が焦眉の国家的課題とされ、大学についても、教育・研究の充実整備が課題となっております。この課題に応えるうえで、まず何よりも大学自身がその教育・研究体制の改革に取り組むことが必要であり、各国立大学が自己点検・自己評価を実施し、それを自らの大学の改革と活性化の契機とすべく努力しているところであります。

それとともに、大学の質的向上を図るには、その担い手である大学教官等に有為な人材を確保することが基本的前提条件であり、それを充たすためには大学教官等の待遇改善を図ることが一つの必須要件であります。また、平成7年11月15日施行、公布された「科学技術基本法」では、国は、研究者等の職務がその重要性にふさわしい魅力あるものとなるよう、研究者等の適切な処遇の確保に必要な施策を講ずるものとしているところであります。

しかしながら、それはいまだ十分であるとは言えない状況にありますので、さらに以下の諸点につきここに重ねて強く要望する次第であります。

記

1. 教育職（一）の俸給水準の引上げを行う等を含め俸給体系を是正すること。

大学は高等教育および学術研究を推進・発展させる中心の存在として社会の付託に応えて、その任務を果たしている。科学技術の急速な進展と国際化の時代にあって、その責務は益々増大しているところである。そのときにあたって、大学の教学の中心の担い手は大学教官であり、教育・研究について絶えざる情熱と高い能力を有する優れた人材を擁することは大学の根本であることに鑑み、その俸給をその職務と責任に見合う水準に引き上げるよう特段の配慮を強く要望する。特に近年、国立大学の教官の給与水準が民間企業研究所や私立大学のそれを大幅に下回っている実態が人材確保の障害の要因ともなっていることに配慮しその急なる改善が待たれる。

また、助手について高校教諭の給与を下回る実態や教務職員の給与の頭打ち等の問題があり、これら職員の給与の格差是正を図る。

なお、以上の俸給水準の引上げと同時に特に中堅教官の給与配分について改善するとともに、現行の昇給延伸制度についても、教官の職の高学歴による高年齢就職等による特殊性に着目してその年齢の引上げを図る。

2. 部局長（学生部長、事務局長等を含む。以下「部局長等」という。）について指定職の完全適用を図ること。

部局長等及び教育、研究の功績顕著な教授に対する指定職の適用拡大については改善が図られつつあるが、まだ十分な状況とはいえない。

指定職制度は、特定の職務就任を条件に適用するのが本来の趣旨であることを踏まえ、部局長等については、その在任期間中はすべて指定職俸給表が適用できるよう措置する。

また、特に教育、研究の功績顕著な教授に対して指定職俸給表の適用をさらに拡大する。

3. 管理職手当の適用対象の拡大と増額を図ること。

近年、大学における管理運営の職責が益々重くなりつつある実情に鑑み、全学的な事項を審議する委員会の委員等の学内教育行政の要職にある者について、管理職手当支給の途を開くよう配慮する。

なお、部局長等について指定職の完全適用を前項で要望しているところであるが、指定職が適用されるまでの間、引き続きその増額を図る。

4. 大学教官特有な職務に見合う手当として「大学研究調整額」(仮称)を新設すること。

大学教官は、高度の専門教育を行うばかりでなく、進展極まりない学術の研究について一定の業績を常に要請される。そのため、各種学会活動や独自の情報の収集等多様な教育・研究活動を遂行することが必須となっている。

しかしながら、このような多様な教育・研究活動に際して、自費から支出する研究費が少なくないことが、当協会財政基盤調査研究委員会が行った全国調査結果により明らかになっている。

この特別な経費負担に対する措置として「大学研究調整額」(仮称)の新設を図る。

なお、職務の特殊性に基づきすでに支給されているものとしては、義務教育教員には「教職調整額」、医師等には「初任給調整手当」等がある。

5. 夜間主コース担当教官に特別な給与措置を講ずること。

夜間主コースを設置する大学・学部(夜間大学院を含む。)の教官は、実態としては昼・夜間両コースを担当せねばならず、その勤務形態は特殊なものであり、負担が過重となっている。

また、夜間主コースは、本来、主として社会人学生を対象とするものであるが、現実としては、教育上多様な対応を要する学生が多数入学し、教官の負担を増加させている。

これらのことを考慮し、夜間主コース担当教官に特別な給与措置を講ずること。

6. 教育・研究支援職員等の待遇改善を図ること。

教育・研究支援職員等の職務は、科学技術の急

速な進展と国際化により一層複雑・高度化し、その役割は更に重要性を増している。また、平成7年に制定された科学技術基本法においても、研究開発に係る支援のための人材が研究開発の円滑な推進にとって不可欠であり、その確保、養成及び資質の向上並びにその適切な処遇の確保の必要性を指摘していることから、各大学を横断的に実施できる研修制度を新設し資質の向上を図るとともに、今後とも技術職員の職務と責任に見合う処遇が行われるよう措置する。

7. 大学の中堅職員(事務系)の待遇改善を図ること。

大学においては、事務長、補佐、係長等の定数が固定されており、豊富な職務経験、職務遂行能力を持つ適任者でありながら、昇任・昇格が限定されるために俸給の上で格差を生じている。このことは、大学の中堅職員等に職務遂行意欲を欠く原因ともなり、ひいては大学運営に重大な影響を及ぼす結果となりかねない。

また、特に近年教育研究の国際化に伴う国際学術交流や留学生受入れ、大学院の整備充実、教育研究システムの多様化、複雑化への対応等高度の専門性を要する新たな業務が激増している。

よって、引き続き専門職制度を一層拡大するとともに、上位の級別定数について特段の措置を図る。

8. 看護職員の待遇改善を図ること。

医学・医療の進展に寄与する診療、教育、研究の場であることを使命とする大学病院において看護職員に課せられた任務は極めて高度化、専門化しており、その役割は重要なものとなっている。

また、看護婦等の人材確保の促進に関する法律が制定され、待遇の改善が図られてきているが、まだ十分とはいいいがたい。

看護力の強化は、大学病院の運営にとって不可欠の課題であり、初任給を含む給与水準の引き上げを引き続き図る。

また、看護職員の勤務形態の特殊性等に配慮し、勤務環境の改善を図る。

平成 9 年度予備的経費配分実績

(職員旅費)

区 分	金 額	区 分	金 額
1. 予 算 額	30,270 千円	2. 配 分 額	30,270 千円
当 初 財 源	33,412	(1) 特 別 事 業 旅 費	5,337
節 約 額	2,454	(2) 入 学 試 験 経 費	418
欠員充員分へ繰入	688	(3) 各 部 局 へ の 補 足	24,515

(校 費)

区 分	金 額	区 分	金 額
1. 予 算 額	562,382 千円	(3) 厚 生 補 導 費	1,477 千円
当 初 財 源	577,027	(4) 入 学 試 験 経 費	17,145
節 約 額	21,520	(5) 本 部 運 営 費	35,795
欠員充員分より繰入	6,875	(6) 管 理 運 営 費	203,321
2. 配 分 額	562,382	庁舎等管理運営費	42,242
(1) 継 年 的 補 足 経 費	38,160	施 設 等 整 備	161,079
(2) 教 育 研 究 経 費	97,686	(7) 百 周 年 記 念 行 事 に	
教育研究用図書整備	1,523	必要経費	23,065
教育研究用設備費	60,864	(8) 各 部 局 へ の 補 足	145,733
教育研究用事業費	35,299		

平成 9 年度歳入・歳出決算額及び対前年度比較調

(文部省所管国立学校特別会計)

区 分	平成 9 年度決算額	平成 8 年度決算額	比 較 増 減 額	増 減 率
歳 入	円	円	円	%
附 属 病 院 収 入	18,448,502,990	17,790,375,829	658,127,161	3.70
授 業 料 及 入 学 検 定 料	9,999,637,450	9,688,793,300	310,844,150	3.21
学 校 財 産 処 分 収 入	0	90,593,940	90,593,940	
雑 収 入	7,419,273,420	5,629,902,326	1,789,371,094	31.78
合 計	35,867,413,860	33,199,665,395	2,667,748,465	8.04
歳 出				
国 立 学 校	55,559,677,539	53,153,170,478	2,406,507,061	4.53
人 件 費	33,190,588,861	33,158,833,614	31,755,247	0.10
物 件 費	22,369,088,678	19,994,336,864	2,374,751,814	11.88
大 学 附 属 病 院	21,165,329,958	20,815,258,972	350,070,986	1.68
人 件 費	8,968,760,384	8,830,933,847	137,826,537	1.56
物 件 費	12,196,569,574	11,984,325,125	212,244,449	1.77
研 究 所	15,309,877,976	14,830,761,390	479,116,586	3.23
人 件 費	9,069,257,463	8,715,878,065	353,379,398	4.05
物 件 費	6,240,620,513	6,114,883,325	125,737,188	2.06
施 設 整 備 費				
物 件 費	5,636,501,000	11,347,505,300	5,711,004,300	50.33
特 別 施 設 整 備 費				
物 件 費	2,683,136,250	573,628,000	2,109,508,250	367.75
合 計	100,354,522,723	100,720,324,140	365,801,417	0.36
人 件 費	51,228,606,708	50,705,645,526	522,961,182	1.03
物 件 費	49,125,916,015	50,014,678,614	888,762,599	1.78

公開講座

京都大学春秋講義（秋季講座）の開講

本学では、財団法人京都大学後援会の協力の下で、平成10年度は下記のとおり「京都大学春秋講義（秋季講座）」を開講する。

本学教職員並びに学生については、各講義とも特別受講枠（無料）30名を設けているので、受講希望者は所属部局の事務担当掛へ申し込むこと。

記

月曜講義（5回シリーズ）テーマ『今日（こんにち）を読む』

開 講 日	講	師	テ	ー	マ
10月12日	大学院医学研究科助教授	森 千 里	内分泌攪乱物質（環境ホルモン）の影響について		
10月19日	大学院情報学研究科助教授	稲 垣 耕 作	情報社会 今日から明日へ		
10月26日	大学院薬学研究科教授	本 多 義 昭	当世生薬事情		
11月 2 日	総合人間学部教授	山 梨 正 明	ことばの科学と心のメカニズム		
11月 9 日	大学院法学研究科教授	位 田 隆 一	21世紀の国連と日本の役割		
定 員	各講義	150名			
受 講 料	各講義	1,000円			

水曜講義

開 講 日	講	師	テ	ー	マ
10月14日	放射性同位元素総合センター教授	五十棲 泰 人	生活の中の放射線		
10月21日	東南アジア研究センター助教授	林 行 夫	現代タイ国の宗教と社会変化		
10月28日	人文科学研究所助教授	金 文 京	近江八景と西湖 風景の見立て		
11月 4 日	大学院工学研究科教授	森 澤 眞 輔	「核の冬」と地球規模気候変動の影響		
11月11日	大学院農学研究科教授	清 水 昌	ゴマと健康		
定 員 各講義 150名					
受 講 料 各講義 1,000円					

会 場 法経第二教室

時 間 午後6時30分～8時

受講資格は問わない。

申込先及び問い合わせ先 総務部研究協力課研究協力掛（内線 2041）

京都大学市民講座の開講

本学では、来る10月31日（土）、11月14日（土）の両日に広く一般市民を対象とする「京都大学市民講座」を開講する。

本講座は、財団法人京大会館楽友会の協力の下に、昭和54年以来毎年開かれているもので、今年度は、「しくみ」を共通テーマに、総合大学の特色を生かして学問の諸領域にわたる講義が行われる。

受講定員 400名

本講座は本学教職員並びに学生に50名の特別受講枠（無料）を設けているので、受講希望者は所属部局の事務担当掛へ申し込むこと。

会 場 法経第四教室

申込先及び問い合わせ先 総務部研究協力課研究協力掛（内線 2041）

講義日程 共通テーマ『しくみ』

開 講 日	テ ー マ	講 師
第 1 日 10月31日（土） 13：00～16：40	開講のあいさつ	副 学 長 古 澤 巖
	金融のしくみ 金融ビックバンを考える	大学院経済学研究科教授 古 川 顯
	教育と人生段階のしくみ	大学院教育学研究科助教授 岩 井 八 郎
第 2 日 11月14日（土） 13：00～16：40	ゴミと化学物質 廃棄物を減らすしくみ	環境保全センター助教授 酒 井 伸 一
	皮膚の老化のしくみ	大学院医学研究科教授 宮 地 良 樹
	閉講のあいさつ	大学院医学研究科教授 西 村 善 彦



昨年度実施の京都大学市民講座

話題

クラブ紹介
陸上競技部

京都大学にも五輪選手がいたことをご存じだろうか。我が陸上競技部は1924年（大正13年）の創部以来、1928年（昭和3年）アムステルダム五輪100mの相沢巖夫選手を皮切りに、1936年（昭和11年）ベルリン五輪三段跳びの田島直人、原田正夫両選手、投擲の松野栄一郎選手、1952年（昭和27年）ヘルシンキ五輪800m、4 × 400mリレーの山本弘一選手などの五輪選手を送り出している。中でも、田島選手の世界新記録樹立及び田島、原田両選手の金銀メダルは、歴史的偉業である。田島選手が優勝記念にベルリンから持ち帰ったオリンピックオークは、今でも北部（農学部）グラウンドの北西隅に青々と繁り、当時の興奮が偲ばれる。

我が陸上競技部は、日本のトップレベルにあった選手を多数輩出しており、彼らは日本学生対抗、関西学生対抗等で活躍し、陸上競技部全体でも、昭和

初期の関西学生対抗7連覇を始め、日本学生陸上界の雄としての輝かしい記録を残している。

最近では、昨年の北海道マラソンで2位になり、今年、旭化成に入社した佐々 勤選手が、シドニーオリンピックを目指して今も練習に励んでおり、今年12月のアジア大会代表に選ばれている。

しかし、近年は私学の台頭もあり、関西学生対抗1部でも苦戦を強いられている状態であるが、こうした中でも、今年5月に行われた関西学生1部の十種競技において、半田知己選手が見事優勝を果たしたことは特筆に値する。また、女子部員も、今は人数が少なく、雌伏の時であるが、昨年には、七大会で総合優勝に貢献するなどの活躍を見せており、現在は、男女とも戦力を整えつつあり、今後の活躍が期待できる。



オリンピックオークに集う陸上競技部員